

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ	担当教員	教授 原 祥子 他		
開講年次及び学期	4年 前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	45	単位数	1
授業の目的（概要）					
健康問題をもって施設で生活する高齢者とその家族の特性を理解し、健康レベルに応じた援助について学ぶ。また、老年期を生きる人々とその家族を支えるケアシステムの役割・機能について理解し、諸機関・他職種との連携・協働のあり方と、その中における看護専門職の役割と責任について学ぶ。					
学修成果（到達目標）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のなかでの老人保健施設の役割と機能について説明できる。 2. 高齢者が抱えている健康問題や、望む生き方・暮らし方について説明できる。 3. 健康問題をもつ高齢者の日常生活上の課題を理解し、残存機能と強みを活かしたケアの実践について説明できる。 4. 施設内のチームケアのあり方について説明できる。 5. 高齢者ケアの場における諸機関との連携・協働のあり方について説明できる。 6. 高齢者ケアの場における高齢者の人権擁護の課題を明らかにし、看護者の役割を説明できる。 					
キーワード					
老年看護、実習、老人保健施設、チームケア、連携・協働、人権擁護					
授業の進め方					
実習					
成績評価の方法（合否基準）					
課題レポートの内容、実習態度の総得点を100点満点に換算したうち、60点以上を合格とする。					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
オフィスアワー					
原 祥子・加藤真紀・福岡理英（地域・老年看護学講座） 質問等随時					
モデル・コア・カリキュラムとの関連					
A-2-1)学修の在り方 A-2-2)看護実践能力 A-3-1)課題対応能力 A-4-1)コミュニケーションと支援における相互の関係性 A-5-1)保健・医療・福祉における協働 A-6-1)ケアの質の保証 A-6-2)安全性の管理 A-7-2)保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割 B-3-2)看護における倫理 D-1-1)看護の基礎となる対人関係の形成 D-1-2)多面的なアセスメントと対象者の経験や望み（意向）に沿ったニーズ把握 D-2-2)看護実践に共通する看護基本技術 D-2-3)日常生活の援助技術 D-3-4)老年期にある人々に対する看護実践 D-4-4)慢性期にある人々に対する看護実践 D-4-5)人生の最終段階にある人々に対する看護実践 D-6-2)リスクマネジメント D-6-3)保健・医療・福祉チームにおける連携と協働 E-1-1)多様な場の特性 E-1-2)多様な場に応じた看護実践 E-2-2)地域包括ケアにおける看護の役割 F-1-1)臨地実習における学修 F-1-2)臨地実習における学修の在り方 F-2-2)安全なケア環境の整備 F-2-3)チームの一員としてのケア参画					

授業計画

【実習期間】

4月12日（月）～16日（金）の5日間

【実習場所】

学内実習（オンラインと対面のハイブリッド実習）

【施設実習の進め方】

- (1) 実習オリエンテーションに出席する。
第1回：3月9日（火）10時～（N11）
第2回：4月12日（月）9時～（Webex）
- (2) 個人ワークおよびグループワークで次の課題に取り組む。
 - ・課題1：下記①～③のコンテンツを踏まえ、老人保健施設の役割と機能についてレポートする。
 - ①老健施設とは：全国老人保健施設協会Hp（オンデマンド）
 - ②「療養生活の場の特徴と看護」；老年看護学概論
正木治恵、真田弘美編集：老年看護学概論（改訂第2版）
南江堂、2016、pp242-258
 - ③「老健の実際；寿生苑の実践から」（ライブ配信）
 - ・課題2：老人保健施設における事例の検討
- (3) 各グループの事例検討の発表およびディスカッションを行う。
（対面またはライブ）
- (4) 実習を通して学んだことや疑問に感じたことを振り返り、老年看護のあり方について自らの考えを深めるためにレポートを作成する。
 - ①テーマは、実習目標を踏まえて各自で設定する。
 - ②レポートを作成する際は、文献を活用し、自らの考えを深める。
 - ③A4用紙（縦置き、横書き、40字×40行／ページ）に1600字程度で記述し、表紙および文献リストをつける。表紙にはテーマも明記すること。

備 考

- ・別に配布する「臨地実習の手引き」を参照のこと